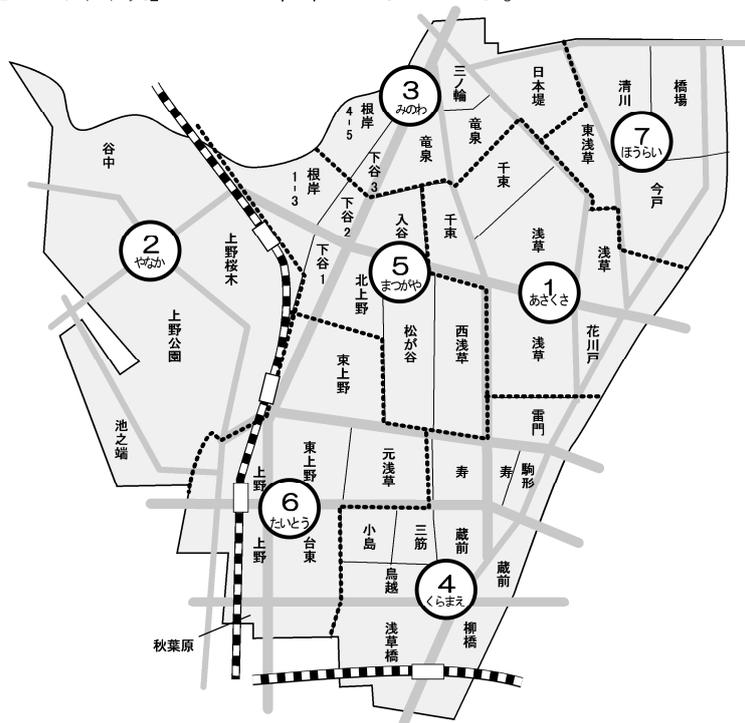


第3章 調査結果の概要

I 調査結果の見方

- 調査名を省略して記載している場合がある。
 - 一般高齢者調査 …〔一般調査〕
 - 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 …〔ニーズ調査〕
 - 要支援・要介護認定者調査 …〔認定者調査〕
 - 介護サービス事業者調査 …〔事業者調査〕
- 調査結果中、「地域包括支援センター」については「包括」と表記している。
- 図表中の「n」は各質問に該当する回答者の総数であり、回答率(%)の母数を表している。
- 回答率は小数第2位を四捨五入して掲載しているため、単数回答の選択割合の合計が100%にならないことがある。また、回答者が2つ以上回答することができる質問(複数回答)の場合、その回答率の合計は、100%を超えることがある。
- クロス集計については、分析の柱となる項目(属性)の「無回答」は掲載を省略している。ただし、「全体」は集計対象の全数を表示しているため、分析の柱となる選択肢の回答者数を合計しても全体の数値とは必ずしも一致しない。
- 台東区では区全域を1つの「日常生活圏域」としており、7か所の地域包括支援センターの担当区域を「小圏域」として位置づけている。



	地域包括支援センター名称	担当区域
1	あさくさ	浅草、千束、花川戸
2	やなか	谷中、上野桜木、上野公園、池之端
3	みのわ	下谷3丁目、根岸4・5丁目、三ノ輪、竜泉、日本堤
4	くらまえ	雷門、駒形、寿、蔵前、三筋、小島、鳥越、浅草橋、柳橋
5	まつがや	根岸1～3丁目、下谷1・2丁目、入谷、北上野、松が谷、西浅草
6	たいとう	東上野、上野、元浅草、台東、秋葉原
7	ほうらい	今戸、東浅草、清川、橋場

II 調査結果の概要

1 主な共通項目の比較

一般高齢者調査（以降「一般調査」という）、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以降「ニーズ調査」という）、要支援・要介護認定者調査（以降「認定者調査」という）の各調査において、同様の質問をしているものを抜粋し、共通項目として比較したうえで、テーマ別にまとめた。

調査票の回答者について、「本人」の回答は、一般調査では92.3%、ニーズ調査では93.1%、認定者調査では59.0%となっている。

(1) 家族構成と住まいの状況

「ひとり暮らし」は、一般調査では28.9%、ニーズ調査では26.6%、認定者調査では30.7%となっている。

日中独居の状況について、「一人で過ごすことはあまりない」は、一般調査では50.9%、認定者調査では45.0%となっている。また、「昼夜とも一人で過ごすことが多い」は、一般調査では23.6%、認定者調査では27.1%となっている。

「災害時や火災などの緊急時に、避難生活することができない」は、一般調査では10.2%、認定者調査では40.0%となっている。また、「災害時や火災などの緊急時に、安否確認・支援してくれる人がいない」は、一般調査では10.5%、認定者調査では13.7%となっている。

住まいの形態は、「持ち家（一戸建て）」「持ち家（集合住宅）」を合わせると、一般調査では78.5%、認定者調査では74.4%となっている。また、住宅で「特に困っていることはない」は一般調査では65.0%、認定者調査では57.7%となっている。

(2) 医療と介護保険制度

かかりつけ医は、「区内にある」が一般調査では67.6%、認定者調査では76.6%となっており、かかりつけ歯科医は、一般調査では64.6%、認定者調査では64.2%となっている。また、かかりつけ薬剤師（薬局）は、一般調査では63.4%、認定者調査では76.7%となっている。

病気やけがで長期の療養が必要となり、通院が困難になった場合に、在宅療養を「希望する」は、一般調査では32.1%、認定者調査では30.8%となっている。また、「希望するが、難しいと思う」「希望しない」と回答した人の理由は、「家族に負担をかけるから」が最も多く、一般調査では60.4%、認定者調査では52.1%となっている。

介護保険制度について、介護保険料とサービスは、一般調査、認定者調査ともに「施設や在宅サービスの量は現状維持とし、保険料も現状程度とするのがよい」が最も多く、一般調査では33.7%、認定者調査では40.8%となっている。

介護保険料の額は、「かなりの負担である」「やや負担である」を合わせると、一般調査では57.2%、認定者調査では43.4%となっている。また、「妥当な額である」「負担には感じない」を合わせると、一般調査では21.6%、認定者調査では28.1%となっている。

今後希望する暮らし方は、一般調査、認定者調査ともに「主に介護サービスを利用して自宅で暮らしたい」が最も多く、一般調査では39.5%、認定者調査では44.1%となっ

ている。認定者調査では、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」の21.2%を合わせると、「自宅」での介護を希望する人が65.3%となっている。

(3) コミュニケーションについて

利用している通信機器について、「スマートフォン」が一般調査では62.8%、ニーズ調査では61.5%と、一般調査、ニーズ調査ともに最も多くなっており、次いで「携帯電話（ガラケー）・固定電話」が一般調査では42.3%、ニーズ調査では37.1%、「パソコン・タブレット」が一般調査では22.3%、ニーズ調査では27.1%の順となっている。一方で、「どれも使っていない」は一般調査では3.2%、ニーズ調査では4.3%となっている。

(4) 地域とのかかわり・地域住民によるサービス

一般調査では、地域で支援を必要とする高齢者の支え手として「すでに活動している」「(活動したいと)思う」を合わせると23.6%となっている。一方、「わからない」「思わない」を合わせると72.0%となっている。さらに、高齢者の支え手としてできることは、「話し相手」「見守り」「買い物」といった支援が上位となっている。

認定者調査では、地域住民による生活支援のサービスを「利用したい」が25.9%で、利用したいものは、「買い物」「部屋の掃除、風呂掃除」「通院の付添・介助」が上位となっている。

(5) 認知症と成年後見制度

認知症になった(かもしれない)ときの家族以外への相談意向は、「相談したい」が一般調査では68.6%、認定者調査では62.5%となっており、相談先としては、「かかりつけ医、近所の医院」が最も多くなっている。

認知症に「関心がある」は、一般調査では81.8%、認定者調査では77.9%となっており、そのうち関心があることは、「予防に効果的な方法」が最も多くなっている。

成年後見制度の認知度は、「名前も内容も知っている」が、一般調査では30.8%、認定者調査では23.7%で、利用意向については、「利用したい」が一般調査では24.2%、認定者調査では21.1%となっている。

(6) 生きがいについて

「生きがい」を感じていることは、一般調査では「テレビやラジオの視聴」が46.8%で最も多く、次いで「食事をする事」「旅行や買い物などの外出」の順となっている。ニーズ調査では「テレビやラジオの視聴」が53.0%で最も多く、次いで「食事をする事」「旅行や買い物などの外出」の順となっている。

(7) 区の高齢者福祉施策

区に力を入れてもらいたい高齢者福祉施策は、一般調査、認定者調査ともに、「相談しやすい窓口の充実や情報提供」「介護している家族の負担の軽減」「在宅での生活を支える介護サービスの充実」が上位となっている。

2 その他のテーマ別にみた調査結果

その他、一般調査、ニーズ調査、認定者調査の各調査において、主要な結果を抜粋し、テーマ別にまとめた。

(1) 健康状態

健康状態について、一般調査では、「よい」「まあよい」「ふつう」を合わせると84.5%、ニーズ調査では、「とてもよい」「まあよい」を合わせると73.2%となっている。

どの程度幸せかを聞いた幸福感（10点満点）については、一般調査では、「8～10点」が49.6%、ニーズ調査では「8～10点」が43.8%となっている。

(2) 社会参加と地域活動

一般調査では、高齢者の支え手としての活動意向は、「(活動してみたいと) 思わない」が44.8%、「(活動してみたいと) 思う」が17.5%となっている。この1年間で地域活動等に「参加した」が35.5%で、活動内容は、「町会・自治会、シニア（老人）クラブなどの活動」「健康づくり・スポーツ活動」が上位となっている。

ニーズ調査では、地域での活動で参加している会・グループ等のそれぞれの参加率は、「収入のある仕事」が29.0%、「趣味関係のグループ」が20.6%、「スポーツ関係のグループやクラブ」が18.7%となっている。地域活動への参加者としての参加意向は、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせると51.4%となっており、企画・運営（世話役）としての参加意向は、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせると32.4%となっている。

(3) 就労状況

一般調査では、「仕事をしている」が41.8%となっており、年齢別では、「仕事をしている」が『65～69歳』は60.3%、『70～74歳』は51.9%となっている。また、今後の就労意向は、「自営業」「正規の職員・従業員」「会社等の役員」「契約・派遣・臨時・パート」「シルバー人材センターを通じた仕事」「その他」を合わせた就業意向がある割合は45.3%で、年齢別にみると、高齢になるにつれて仕事をしたい割合は少なくなる傾向にあるが、『85歳以上』でも仕事をしたい割合は28.2%となっている。

(4) 生活状況

一般調査では、ふだんの食事の用意は「自分が調理」が54.9%となっている。家族・親族・知人等との会話は「ほぼ毎日」が全体では76.9%となっているが、ひとり暮らしでは46.6%となっている。1週間の外出の頻度は、「ほぼ毎日」が全体で48.7%となっており、65～69歳では58.5%、70～74歳では53.1%となっている。

また、ニーズ調査では、「自分で食品・日用品の買い物をする」は88.2%、「週5回以上外出している」は45.5%となっている。

(5) 日頃の生活で不安に感じる点

一般調査では、日頃の生活で不安に感じる点は、「ご自身や家族の健康や病気のこと」が60.0%で最も多く、次いで「ご自身や家族が寝たきりや身体が不自由になり、介護が

必要な状態になること」「自然災害（台風、地震等）や火災などの緊急事態が発生すること」がともに4割台で続いている。

（6）介護予防

一般調査では、介護が必要にならないために「心がけていることがある」は91.4%で、そのうち「1日3食食べる、栄養バランスに気をつけている」が71.0%と最も多く、次いで「散歩や体操など定期的に身体を動かす」が59.6%、「かかりつけ医に定期的に診てもらおう」が47.0%となっている。

介護予防教室に「参加してみたい」は63.9%で、そのうち参加してみたい教室は「運動機能向上」「膝痛や腰痛の対策・予防」「認知症予防やうつ予防」が上位となっている。

（7）介護保険サービスの利用状況・利用意向

認定者調査では、介護保険サービスの利用状況は、「利用している」が70.0%で、利用している場合のケアプランの満足度は、「満足している」「ほぼ満足している」を合わせると83.6%となっている。希望どおりにサービスが利用できているかどうかについては、「ほぼ希望どおりに利用できている」が78.3%となっている。

また、利用していない場合の理由は「自分で何とか生活できるため」が66.4%、次いで「家族が介護してくれるため」が27.1%となっている。

介護者が望む介護の形態では、「自宅で介護保険サービスと家族等の介護を併用する」が35.1%と最も多く、次いで「自宅で家族や親族が介護する」「特別養護老人ホームなどの介護保険施設を利用する」の順となっている。

介護者が望む支援やサービスでは、「冠婚葬祭・急病時等に預けられる緊急ショートステイ」が30.4%で最も多く、次いで「必要に応じて夜間の利用や宿泊ができるサービスや施設」「介護に関する相談支援の充実」の順となっている。

（8）介護者の状況

認定者調査では、介護してくれる家族の有無は「いる」が64.6%、一方、「家族はいるが、介護してもらっていない」「家族はいない」を合わせると26.1%となっている。主な介護者の年齢は「40～64歳」が33.2%、健康状態は「健康」「持病はあるがおおむね健康」を合わせると73.1%となっている。

就労状況では、仕事が「あり」は42.3%となっている。そのうち、働き方の調整については、「特に行っていない」が39.3%、一方、労働時間、休暇取得、在宅勤務など、何らかの「働き方の調整をしている」は、55.5%となっている。

介護のために「仕事を辞めた」「転職した」人は14.1%、離職した理由は、「仕事と介護の両立が難しいから」が65.9%と最も多くなっている。一方、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は42.3%となっている。

介護保険サービスの利用による介護者の負担は、「大いに負担が軽くなっている」「多少は負担が軽くなっている」を合わせると51.7%となっている。